佳作　（低学年の部）

ぼくのお父さん

福島県　郡山市立行健小学校　二年

佐藤　海斗（さとう　かいと）

　せんろには、がせんがあり、やく二万ボルトの電りゅうがながれています。きかん車のやねについている、ひし形じょうのパンタグラフから、エネルギーをもらって走る電気きかん車。はい気ガスの出ないかんきょうにやさしいのり物です。

「ピーッ。」

目の前をか物れっ車が通かしました。ぼくとお母さんは、手を大きくふって答えます。そう、ぼくのお父さんは、か物れっ車のうんてんし。いつも、していされた時間と場しょへ行くと、数分のくるいもなく、ぼくたちの前を通かします。

　はじめて見に行った時は、おどろきのれんぞくで、とてもこうふんしたことをおぼえています。何りょうものか車に数多くのコンテナがつまれていて、いくつあるのか、お母さんと数えたこともあります。その時は、たしか八十こぐらい。長さにすると五百メートルはありそうです。一人で、あれだけのに物をはこぶ、お父さんのすがたを間近で見られて、かんどうしました。

　前に一ど、なぜ今のしごとをえらんだのか、しつもんしたことがあります。すると、お父さんは、

「ゆめがあり、やりがいをかんじたから。」

と、答えました。ぼくもしょう来、そう思えるしごとをやってみたいです。

　しごとから家に帰るとやさしいお父さん。ぼくが学校でのできごとを話していると、え顔で聞いてくれます。また、いっしょにあそんだり、べん強やうんどうも教えてくれます。でも、おこるとすごくこわいです。

　ぼくの家には三つのやくそくごとがあり、

一、あいさつは大きな声で。

二、自分がやられていやなことは、ほかの人にぜったいしない。

三、何でも一生けんめいがんばる。

と、いうこと。お父さんは、人として大切なことだと話します。

　何をするにも、ぼくがなっとくできるまでせつ明してくれる、そんなお父さんが大すきです。毎日、家ぞくのためにおしごとおつかれさま、そしてありがとう。

　ぼくも、りょう親のあいじょうをもらって、ゆめへとつづくレールを走りつづけます。

「行き先よし、今日も一日、出発・しん行。」